

社会科学習指導案

日時 平成22年11月12日5校時
学級 1年A組13名(男子9名女子4名)
指導者 教諭 杉野 浩利

1. 単元名

「都道府県の調査」(および「日本の諸地域」)

2. 単元について

(単元観)

「日本のすがたとさまざまな地域」、「身近な地域の調査」と学習を進めてきて、「都道府県の調査」の学習となる。現在使用中の教科書(東京書籍)では、岩手・福岡・東京が例題として掲載されている。この3都県および北海道を学習した場合、触れられていない地方は中部、近畿、中国・四国となる。この3つの地方の特色を捉えさせたい。なお、中部は下記新指導要領の(ウ)、近畿は(イ)、中国・四国は(オ)の考察のしかたで学習を進めることとした。

学習指導要領の新旧比較

<p><現行> 都道府県</p> <p>47都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見い出して追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。</p>	<p><新指導要領> 日本の諸地域</p> <p>日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、(ア)～(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。</p> <p>(ア) 自然環境 (イ) 歴史的背景 (ウ) 産業 (エ) 環境問題・保全 (オ) 人口や都市・村落 (カ) 生活・文化 (キ) 他地域との結び付き</p>
---	--

(指導観)

本単元では、地方区分ごとのグループを作り、関連する情報を収集、考察、発表することで、地域ごとの特色を理解させたい。基本事項を教科書や地図帳でおさえながら、新聞を活用することで生徒たちが見たことも行なったこともない場所への認識を深められたらと考える。

3. 単元の目標

- ① 多くの資料を意欲的に収集し、積極的に発表することができる。(興味・関心・意欲)
- ② 追求した過程や結果を、新聞、ポスター、ロールプレイなど様々な手段を用いて適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ③ 地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができる。(技能)
- ④ 日本の各地方の特色・課題を自分の言葉で表現することができる。(知識・理解)

4. 評価規準

- ア グループ活動を通して、積極的に発表することができる。(興味・関心・意欲)
- イ 追求した過程や結果を、新聞、ポスター、ロールプレイなど様々な手段を用いて適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ウ 地理的な見方や考え方や作図など地理的技能を身に付けることができる。(技能)
- エ 3地方の特色・課題を自分の言葉で表現することができる。(知識・理解)

5. 単元の指導計画と評価計画

時間	学 習 活 動	評価・観点	評 価 方 法
1	・ 3地方の記事を探す。 (各紙1～2名)	ア	・ 意欲的に資料の収集を行っているか。
2	・ グループ作りをする。 ・ グループごとに発表内容を検討する。	ア イ	・ グループでの学習に意欲的に取り組んだか。(行動観察・ワークシート) ・ 適切な考察や発表方法の工夫ができたか。(ワークシート)
3 ～ 4	・ グループごとに発表内容を検討する。	ア イ	・ グループでの学習に意欲的に取り組んだか。(行動観察・ワークシート) ・ 適切な手段を考えたか。(ワークシート)
5	・ 資料のまとめを行う。 ・ 発表物(資料)をつくる。 ・ 発表の流れをつくる。	ウ ア	・ 地図など様々な資料を用いて発表方法を工夫できたか。 ・ 関心を持ちやすい発表の流れを作ることができたか。
6 本時	・ 発表を行う(聞く) ・ 自分の考えを書く。	ア イ エ	・ 意欲的に発表できたか。 ・ 工夫された発表になったか。 ・ 特色を把握できたか。

6. 生徒の実態

明るく素直な生徒が多い学級である。教師からの問いかけに積極的に応じようとする姿勢がある。最近のアンケートでは社会科の学習を「難しい」と感じている生徒が増えてきている。理解までにやや時間がかかる生徒も数人いる。また理解は早いですが、課題を早く終えて落ち着かなくなってしまう生徒もいる。

7. 本時の学習

(1)目標

- ① グループ活動を通して、積極的に発表することができる。(興味・関心・意欲)
- ② 追求した過程や結果を、新聞、ポスター、ロールプレイなど様々な手段を用いて適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ③ 3地方の特色・課題を自分の言葉で表現することができる。(知識・理解)

(2)本時の展開 (6/6)

時間	主な学習活動	指導上の配慮事項	評価
課題把握 3分	<p>●本時の課題を把握する。</p> <p>【本時の課題】 各地方の発表を見て、分かったことを答えよう。</p>	<p>●ワークシートを配布し、特色を捉えることを確認する。</p>	
課題追求	<p>●各地方の発表を聞き、質問にグループで答える。</p> <p>I 中部地方の産業 (クイズ)</p> <p>①中部各県の県名を答える。 ②中部各県の生産量第1位の産物を予想し発表する。 ③米に関わる新聞記事の見出しを予想し発表する。 ④③の記事から新潟県の状況を予想し発表する。</p> <p>II 近畿地方の歴史 (寸劇)</p> <p>①聖武天皇ゆかりの剣にまつわる寸劇を見る。 ②光明皇后がなぜ大仏の下に剣を埋めさせたのかを予想し発表する。 ③他の新聞記事やこれまでの歴史学習の内容で近畿地方にあてはまるものを確認する。</p> <p>III 中国・四国の人口 (レポート寸劇)</p> <p>①過疎にかかわる他の事例を確認する。 ②高知県四万十市西土佐の過疎化にかかわるレポートを見る。 ③唯一の商店が消えた地域で、どのように日用品を手に入れたらよいかを考え、発表する。</p>	<p>●ワークシートに適宜記入を促す。</p>	アイエ
まとめ 5分	<p>●各グループの発表から読み取った特色をワークシートに書く。</p>	<p>●感想とならぬように留意する。</p>	エ

(3)評価

- ①グループ活動を通して、積極的に発表することができる。(興味・関心・意欲)
- ②追求した過程や結果を、新聞、ポスター、ロールプレイなど様々な手段を用いて適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ③3地方の特色・課題を自分の言葉で表現することができる。(知識・理解)

各グループの発表を見て分かったことを答えよう。

11/12

氏名

グループ	分かったこと
中部	
近畿	
中国・四国	

